

教諭枠出願 900人切る

県教委19年度採用 25年ぶり

県教委は11日、2019年度公立学校教員採用試験の出願状況を明らかにした。教諭枠の出願者は前年度比82人減の868人で、25年ぶりに900人を下回った。約200人の募集人員に対する倍率は0・38^増の4・34倍。

同日の県教育委員会の会合で報告した。県教委によると、教諭枠の出願者は13年度の1251人をピークに6年連続

で減っている。会合で県学校振興課は、出願者減の要因に民間の雇用増を挙げ「教員の業務を改善して働きやすい環境をつくり、教員の魅力ややりがいを志願者に伝えていきたい」とした。

出願の内訳は一般選考が824人、スポーツ・芸術の実績などによる特別選考が44人。一般選考の倍率は小学校が3・05倍で、一括募集の中学・高校は保健体育が29・00倍、美術が12・00倍、社会が6・75倍など。国語の2・33倍が最も低かった。

養護教諭は54人(募集19人程度)、栄養教諭は14人(同1人程度)が出願した。出願者総数は前年度比102人減の936人で千人を切った。

7月14、15日に1次選考がある。(小林真也)